



新喜多中だより

校長 河本 浩幸



～うちの生徒はみんな新喜多の子～

令和7年5月30日

第5号



学校 HP はこちら👉

『シロートだからよ!!』

このセリフ、誰の言葉かお分かりですか？人気バスケットボール漫画『スラムダンク』で主人公である桜木花道の名ゼリフの一つです。身体能力は高いけれど、バスケットボールに関しては全くの素人であり、短期で問題児だった桜木花道は、入学した湘北高校でひょんなことからバスケットボールを始めることになりました。そして、練習や試合、仲間との関わり合いから、人間として成長していくという物語。2022年には映画が公開されとても大きな話題となりましたので、ご存じの方も多いと思います。

セリフの話に戻ります。その湘北高校バスケットボール部が全国大会に出場し、前年度まで3連覇を達成している王者・山王工業高校と対戦することとなり、その試合は後半も約半分終わったところで24点差のビハインド。絶望感が漂う中、桜木花道がチームメイトを鼓舞したセリフが、「おめーらバスケかぶれの常識は、オレには通用しねえ!!シロートだからよ!!」でした。この瞬間、チームメイトに勇気を与え、最終的に湘北高校はこの試合に……。これ以上はネタバレとなるので(笑)

日本人は海外に比べて自己肯定感が低いとの調査が注目され、近年、教育現場でも「自己肯定感の育成」が強く求められています。しかし、「自己肯定感ばかりを追求することがかえって子どもを追い込んだり、苦しめたりしている可能性がある」と警鐘を鳴らしている評論家もいます。「自己肯定感が高い＝良いこと」という思い込みが、他者と自分を比較させ、結果として子どもの個性を抑え込む原因になっているとのことです。自己肯定感とは本来、自分の存在や価値を肯定的に受け止める力ですが、子どもたちにとってそれが「常に自信を持たなければならない」「結果を出さなければならない」「成功しなければいけない」というプレッシャーになると、心に大きな負担を与えてしまいます。特に多感な時期にいる中学生にとって、他者との比較や社会からの評価は避けがたく、「もっと頑張らなければ」「自分はまだまだ」「失敗してはダメだ」などと自己肯定感の“理想像”に縛られ、本来の個性や自由な発想を失ってしまうことがあります。私は自己肯定感を「持たなければならないもの」として捉えるのではなく、「そのままの自分を受け入れる力」として捉え、子どもたちに自分の存在価値を見出せるように言葉かけや支援していくことが大切だと考えます。そして、私たち大人ができることは、結果を出すことを無理強いしたり、誰かと比べて評価したりするのではなく、その過程や思いに寄り添い、子どもたちに共感の言葉を届けることが大切なのではないかと思っています。

他が設定した常識にとらわれず、シロートである自分を受け入れ、がむしゃらにプレーする桜木花道。周りから兄と比較され続けて育ち、全国大会の激闘を通してそこから解放された宮城リョータ。キャプテンとして素晴らしい選手であるにもかかわらず、相手選手と比較してしまい自分を見失いそうになる「ゴリ」こと赤木剛憲。過去に輝かしい栄光と、ケガにより挫折の日々を送った自分に葛藤する三井寿。表には見せずとも、高い目標に向けて血のにじむような努力をし続けるスーパースター流川楓。スラムダンクの登場人物たちが試合の勝ち負け以上に「自分らしくプレーすること」に価値を見出している姿は、結果ではなく“過程”を大切にすることの意義を教えてくれているように感じます。



●サッカー部

5月11日(日)、サッカー部が中河内大会に出場しました。サッカーは1チーム11人で試合をするのですが、これまで2、3年生だけでは11人に満たず、これまで試合の時は他の学校と合同で出場していました。ただ、今年は多くの1年生がサッカー部に入部したことで、およそ10カ月ぶりに単独チームで試合参加することができました。出場選手の半分以上が1年生で、体の大きさでは相手より劣っていることもありましたが、必死に体を張ってディフェンスをするなどもあり、白熱した試合展開。前後半の60分を戦い、スコアは2-2でPK戦に突入。新喜多は3人の選手がきっちりと決め、1年生のキーパーが3本の好セーブをし、見事勝利！勝利したこともうれしいのですが、それよりもいつも一緒に練習したり過ごしたりしている仲間と、単独チームで試合に出場できて、頑張っている姿を見ることができたのがとてもうれしく思いました。

また、この試合にはたくさんの保護者の方にも応援していただきました。母の日の最高のプレゼントになったようです。



●3年生、沖縄修学旅行「ゆいまーるの心を大切に ～79期 海を越えたつながりへ～」

3日目の朝、退村式を行い、お世話になったお父さん、お母さんともお別れをしました。中にはお母さんにハッピーバースデーを歌ってあげていたり、お父さんにスマホの使い方を教えてあげていたり、固い握手を交わしたりと、とても温かい雰囲気でした。その後は那覇市内に移動し、待ちに待った国際通りでの、お買い物の時間。大阪にいる家族のことを思い返しながら、何を買おうかあれこれと悩んでいる子がたくさんいました。たくさんお土産を買うことができて、集合した時にはなぜか面白いサングラスをつけている子がいっぱいでした。西堤神社への到着はとても遅い時間になりましたが、たくさんの保護者や先生に出迎えてもらい、子どもたちも安心した様子でした。

沖縄での3日間は絶好の天気にも恵まれました。そして、大きく体調を崩す子や、大きなトラブルもなく修学旅行を終えたことが、何よりも良かったです。保護者の皆様におかれましては、多大なるご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございました。事前の健康管理や荷物の準備、そして当日の早朝・夜間のお迎えなど、さまざまな面でご負担をおかけしましたこと、心より感謝申し上げます。保護者の皆様のご協力があったからこそ、子どもたちは安心して旅を楽しみ、多くの学びを持ち帰ることができましたと思います。

楽しむときはいっぱい楽しみ、つながりや思いやりを何よりも大切に、いつも温かく優しい79期生。新たな素晴らしい発見もたくさんありました。今後とも、生徒一人ひとりの健やかな成長を支えてまいりますので、引き続きご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。

